



発行 ● 狛江市政策室  
〒201-8585 狛江市和泉本町1-1-5  
☎3430-1111 FAX3430-6870  
Email=wacco@city.komae.lg.jp  
編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press  
〒201-0003 狛江市和泉本町1-35-3  
ル・ミリオン・イダ3階A号  
☎3430-6617 FAX3430-6743

# 楽しく働いて生きがいをつくろう

## 公益社団法人 狛江市シルバー人材センター

### 多彩な仕事、高い入会率

公益社団法人狛江市シルバー人材センター（石黒實会長、猪方4-13-1）は、高齢者が働くことを通して生きがいを得るとともに、地域社会の活性化に貢献することを目的に、共に働き、共に助け合う「共働共助」を理念にしている。

昭和53年に「狛江市高齢者事業団」の名称で都内21番目に設立され、55年に法人化を図るとともに「社団法人シルバー人材センター狛江市高齢者事業団」と改称した。平成2年に「社団法人狛江市シルバー人材センター」に名称を変更、23年に公益社団法人になった。

入会できるのは60歳以上で、現在約700人が登録しており、都内の他の自治体に比べて入会率が高い。また、女性会員が約250人おり、これも他の自治体より比率が高いという。平均年齢は76歳で、まもなく100歳になる会員もいる。

仕事は狛江市内で行うものに限られるが、年間5,000件以上に達している。仕事の内容は、企業などの事務、パソコンのデー



クラブ活動でダンスの練習をする会員たち

タ入力、家庭教師、公共施設の夜間の管理、マンションの共益部分の清掃、庭の除草、家事援助、さらには専門的な技能が必要な植木のせん定、網戸の張り替えなど多岐にわたる。最近では市の刊行物やチラシなどのポスティングが増えている。

このほか、派遣事業として老人福祉施設の宿直、保育園の保育補助なども手がけている。また、衣類のリフォームなど行う衣服工房ひまわりをはじめパソコン教室、英会話教室などの独自事業も行っている。

### 個人事業主として登録

仕事を受ける場合は雇用関係ではなく、個人事業主として登録する。就業は月10日程度、週20時間以内と上限が定められ、仕事の対価は給料ではなく「配分金」として支払われる。

仕事は、専門技術を伴う場合は別として、以前の職歴は問わない。また、働け

る時間帯や日数など本人の希望に添うように平等に扱われ、原則として自宅近くを優先するという。

入会手続きは毎月開催、同センターの説明や仕事への心構えなどの研修を行い、個人面談を行う。また、顧客との接し方の研修や健康管理の講習も行う。

会費は年2,000円で、年4回発行の会報に加えイベント参加用に揃いのTシャツ、ポロシャツ、タオルなどが支給される。

### 明るく楽しい組織を目指す

社会貢献としてボランティア活動にも取り組んでおり、公園の清掃などを積極的に行っている。また、クラブ活動として散歩、マーじゃんに加え、3月に女性ダンス部が発足した。昔流行したポップスなどの歌に合わせ



▷24

て踊るもので、会員たちはカツラや衣装など揃えて近く発表するという。

同センターの運営は、市内5つの地区から選出された理事などで構成する理事会が担当している。8人の職員が発注者や会員との連絡調整、仕事の開拓などを行っている。事務局長の池田あけみさんは「ここ5年間で会員が



ボランティアで道路を清掃

約200人増え、29年、30年と新規入会率が2年連続で都内1位になりました」と話し、その理由として「ボランティア活動、いかにレースへの参加などで知名度が上がったためでは」と分析している。「明るく楽しい組織へと従来のイメージを変えたい」と話し、「自分の体力に合わせてゆっくり働き、お小遣いを増やして生涯現役で楽しく過ごして」と入会を呼びかけている。

問い合わせ ☎3488-6735 狛江市シルバー人材センター。

# 狛江の福祉を支える幅広い事業を展開

## 社会福祉法人 狛江市社会福祉協議会

### 福祉の向上と充実が目的

社会福祉法人狛江市社会福祉協議会（高木光会長、元和泉2-35-1）は、高齢者や障がいのある人だけでなく、地域に住む全ての人の福祉の向上と充実を目的に様々な事業を行っている。

約2,200人が会員になっており、法人の運営のため理事と評議員が置かれ、事務局が実際の業務を担当している。

### ボランティアを育成

市制施行直前の昭和45年5月に「狛江町社会福祉協議会」の名称で任意団体として発足、狛江町福祉課の職員が業務を担当した。49年12月に法人化して現在の西河原公民館の場所にあった福祉会館へ移転、専任の事務局長と職員1人で活動を開始した。

発足当時は、手話講習会開催や声の広報活動の支援、ひとり暮らしの老人給食サービス実施、心身障がい児の緊急一時保護など、障がい者の支援事業が中心だった。52年のボランティアスクール開講、57年のボランティアのつどい開催などボランティアの育成にも力を注ぎ、59年にはボランティア連絡会が発足した。63年には高齢者や子育て世代の家事援助などを市民が相互に支え合う狛江独自の「笑顔サービス」がスタートした。

平成12年に始まる介護保険制度に先立ち、9年から高齢者在宅サービス事業、10年にホームヘルプ事業など高齢者への支援事業を行っている。16年の新潟県中越地震では災害支援に職員を派遣、23年の東日本大震災では「狛江市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル（震災編）」を策定、職員派遣のほか義援金の募金活動、狛江市と共催で市民ボランティアによる宮城県石巻市へのバスパック事業など幅広い支援活動も繰り広げた。24年にはマスコットキャラクターの「こまちゃん」が誕生、イベントなどでPR活動を行っている。28年には、市が和泉本町1丁目の小田急線高架下に開設した市民活動支援センター（こまえくぼ1234）の指定管理者になった。

### あいとぴあ計画を基本に

社協の主な事務局はあいとぴあセンターにあり、100人余りの事務局員が幅広い業務を行っている。事務局は地域福祉課とサービス事業課に分かれる。地域福祉課には、地域総務係、市民活動支援係、相談支援係があり、ボランティアや市民活動、高齢者への相談支援等を担当するほか、法人の運営も行っている。サービス事業課には障がい者通所訓練係があり、

障がい者（児）への相談支援や通所支援等を担当している。

地域福祉事業を総合的かつ計画的に実施するため、平成2年に初めて「あいとぴあ推進計画」を策定し、それに沿って活動計画を定めて事業を実施してきた。あいとぴあ推進計画はその後も見直しが行われ、30年から「一人ひとりが主役となって、誰もが安心して暮らせるまち」をテーマに策定した「第3次地域福祉活動計画」に沿って事業展開をしている。

### 地域福祉を住民と共に

地域の様々な課題に対応するため、31年からコミュニティソーシャルワーカーを配置しており、ひきこもりや困窮、住民トラブルといった制度の狭間のような課題にも対応し、数々の支援を行っている。

また、地域住民のつながりの希薄化の課題から、多世代交流の拠点づくりにも取り組んでいる。

令和元年からは元和泉3丁目の「よしこさん家」で

所有者とともに企画を検討し、絵本の読み聞かせ、自由に利用できるフリースペース、子育て世帯向けの居場所づくりなどを行っており、多



マスコットキャラクターのこまちゃん

くの人が訪れる。今後も新たな居場所の展開や、出張相談会にも取り組むという。

このほかの重点事業として、地域の福祉活動の担い手創出につながる「福祉カレッジ」を31年から開催。幅広い福祉の知識を習得できるほか、実際に地域で活動している人が講師を務めており、具体的な活動のイメージを持てるという。受講後に新たに民生・児童委員になったり、福祉分野に転職した人、新たにボランティア活動を始めた人など多くの成果が出ている。

地域を支えるひとつづくり、地域をみんなと支えるまちづくりを目指し、「福祉のまちづくり委員会（仮称）」の設置も目指している。また、3年には新たに移動困難者のための移送サービスの福祉有償運送事業を始めた。

問い合わせ ☎3488-0294 狛江市社会福祉協議会。



よしこさん家